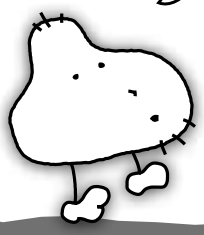
特定非営利活動法人りあん 地域生活サポートセンターじゅぷ通信

じゅぷぬぷぼん

NPO法人りあん 地域生活サポートセンター

特定非営利活動法人りあん　地域生活サポートセンターじゅぷ通信「ぬぷぼん」第16号　2013年2月

●いつの間にか10年
●きたがわの外出支援でのちょっとした発見　ハワイ編
●ヘルパーインタビュー「福祉学部以外の学部に所属する学生ヘルパーさん」
●阿部コラム「当然の判決」
●映画・本紹介「ミス・ポター」「ピーターラビットのおはなし」
●じゅぷ川「節電」
●新人紹介　●事務所の2階テナントを借りました



じゅぷ10周年！

この２月でじゅぷが出来て10年になります。当時４月からの支援費制度の施行を控えてのあわただしい設立だったと記憶しています。

そして支援費制度が出来たことにより障害者のヘルパーという仕事が生まれました。ヘルパーという仕事の歴史もじゅぷ同様まだ10年程度のものなのです。それは制度が出来るずっとずっと前からの地域での生活を訴える障害当事者の闘いを礎にして出来たものであることは言うまでもありません。そしてその闘いは生活される中で、また時には行政交渉や裁判闘争という形で今も続いています。

この10年間で、支援費制度から自立支援法、そしてこの４月からは総合支援法へとめまぐるしく法制度は変わっていっています。あと10年後にはどうなっているのでしょうか。出来て10年まだまだ不完全な制度やヘルパーという仕事を10年後には少しでもニーズに応じた完全なものに近づくよう、障害当事者の方と共に闘い、考えながら一日一日を積み重ねていきたいと思っています。　（前田）

お正月明けに事務所前で餅つき大会をしました

2013.2　第16号

いつの間にか10年

染井将仁

じゅぷが出来てちょうど10年になります。２階を借り、模様替えをすることもあり、事務所を整理していると、まさに10年分の資料やゴミが出てきて、何かと懐かしくなります。しかし、懐かしんでばかりいると片付かないので、時に思い切って棄てたりもします。日頃、あまり振り返ることもできていませんので、これを機に振り返ってみましょう。

「障害のある人の地域生活を応援します」「地域で生きる障害のある市民の支援を通して、誰もが住みよい社会の創造に寄与することを目的に設立する」10年前、そう宣言して始りました。実現できているのでしょうか？

できごと①

現在の事務所に移転した頃のクリスマス、登録ヘルパーの方からモミの木をいただきました。外の植え込みに鉢のまま置いておくと、いずれ鉢を割り、今やすっかり根付いています。そして、そのモミの木を下さった登録ヘルパーさん、じゅぷとの関係は続いていますが、立場は変わり今はヘルパーを利用する側です。例えば、そんな変化があります、10年のうちには。

状況が変われば支援する人であり、利用する人であり、それは自然なことだと思います。人は皆、遅かれ早かれ人の助けを必要とします。僕だっていつか利用する立場になるかもしれません。いずれの立場であっても、関わっていたいと思えるような事業所であり続けたいです。

できごと②

利用者さん宅で「学生時代、登録ヘルパーだったＩ君が結婚するので招待を受けた」と聞きました。私たちの知らないところでつながっているのを知ると、とても嬉しくなります。業務上、ヘルパーと利用者としてであっても、個と個の関係までも深まるようならば素敵だと思います。もちろん、強要されるものではありませんが。

また先日、駅でスーツ姿の男性に声をかけられたのですが、誰か分からず戸惑っていると「Ｎです」。名を聞き思い出しました、学生時代に登録ヘルパーだった彼が、今や警察官だというのです。10年、多くの学生が関わってくれました。登録ヘルパーを経験した学生たち、福祉関連の職に就く方は半数程度でしょうか。それでも良いのです。他職種に就いた時も普段の生活でも、何らかの場面で障害のある方と出会ったり考える機会はあるはずです。そこで適切な配慮をするなど、じゅぷでの経験を役立ててくれていることと信じています。それが少しでも「誰もが住みよい社会」につながっていけば嬉しいです。

さて、具体的な事業としては、10年を通して障害のある方へのヘルパーによる支援が主でした。あらためて、ヘルパーって何でしょう。

人が生活するには、それぞれに何かと助けが必要です。その当たり前に必要な手助けを、本人や家族だけの負担にしてはいけない。社会で互いに助け合おう、例えば近所の人同士で。でも、そうすると責任が不確かで、当人の生活も不安定になってしまう。だから社会全体で税金というカタチで分担し、誰かが業務として担おう。その誰かがヘルパーだということですよね。

当たり前の生活を実現するために、多くの人手が必要です。10数年前は、障害のある方が地域で暮らすには、当人自身が相当に頑張らなければなりませんでした。それが今や、まさに、その苦労をされた先人たちのお陰で、（内容は充分ではないものの）新たな制度も徐々に創設され、障害のある人が地域で暮らすことの可能性は、随分と拡がりました。

それを引き継いでの10年、障害のある方の地域での暮らしを実現するために、少しづつであっても、助けになれていると思います。また、課題に対し、改善のため、行政との協議や提言もおこない、それなりの成果も得ています。大津や湖南地域で、ヘルパーを利用しての地域生活の考え方を拡める役割も担ってきたという自負もあります。

でも実は…「可能ならヘルパーという業務としてでなく、地域の人同士で助け合えれば、その方がステキだな」というのが個人的には本音。不安定だから、そればかりに頼るわけにはいかないけれど、助け合いのカタチも残しておきたい。そう思いながらも、それを実現するための努力はあまりできず、業務としてのヘルパーを増やしてきました。それでも、冒頭のような出来事があると“地域での助け合い”を進める一助にはなっているかとも思います。今も何が正しいかは分からず、迷います。

今や常勤ヘルパーが10人です。当初は２人でしたね。ニーズに追われ規模を拡大してきました。それでも、利用の相談を受けながら、その依頼を断らざるをえないことも多いです。断る時はつらいです、いつも。必要なことは理解しますし、出来ることならば…と思いますが、全てに応えることはできません。従業員を増やすことでその依頼に応えることができるとしても「規模が大きくなっても自分たちの思いを捨てずにできるだろうか」と心配します。葛藤はありながらでしたが、必要に応じ、自分たちの思いを棄てずにいれそうなスピードで、少しずつ規模が大きくなってきました。ニーズは増え続けていますから、じゅぷが大きくなることも必要なのかもしれませんが、できれば、仲間と思える事業所が地域に増えることも期待しています。

事業をおこなう上で、棄ててはいけない大切なこと。まだまだ迷うことも多いです。皆さんの想い聞きながら、共に考え、これからも続けていきたいです。

今回はわたくし、北川がこのコーナーを担当させていただきます。昨年、利用者のM.O.さんと一緒にハワイに行かせていただいたので、その時の感想など書かせていただきます。

まず僕は海外旅行に行ったことがなく、今回のヘルプでの旅行が生まれて初めての海外旅行でした。もちろんパスポートすら持っていなくて、英語もぜんぜんわからん！……という状態で、初海外がヘルパーとしての仕事ということもあって、行く前はすごく緊張しておりました（汗）緊張しながら出発し、旅行を終え帰ってきた時の感想は「楽しかった～！」でした（笑）心配していた言葉もハワイだったので、日本語だけでほとんどOKでした。今回JTBのツアーで行ったので、向こうでの移動の大半はJTBの無料のトロリーバスで済み、またちょっとした事も宿泊していたホテルにJTBのツアーデスクがあり、普通に日本語でいろいろ聞けたので本当に日本語しか喋ってない！？ってぐらいでした。

飛行機の機内

旅の初めの空港から、旅行慣れしていない僕は緊張していたのですが、さすが空港でのサービスは素晴らしかったです。チェックインカウンターから機内に乗り込む直前まで航空会社の方が付き添っていただき、手続きや車イスでの出入り口の案内など全てやっていただけました。車イスを押すのも大変丁寧で、お客様に対してのサービスの気持ちが伺えました。機内に乗り込む所まで自分の車イスを使わせてもらえたり、飛行機の座席もトイレの近くにと、いろいろと配慮があったと思います。そしてハワイの空港に着いてからも現地の空港の方が、飛行機を降りる所からツアーの集合場所まで付きっきりで案内をしてくれ、片言の日本語でいろいろ喋りかけていただきました。日本の空港とハワイの空港との違いは、日本ではサービスのプロフェッショナルに徹しておられ、ハワイでは本当に気さくで陽気にいろいろとしてもらえました。国民性の違いでしょうか？でもどちらも気持ちよいサービスでした。

トロリーバス

ハワイに着いてからも、ホテルや建物にはスロープがあり、道路も車イスで通行しやすい環境でした。カメハメハ大王像を見に行く時にTheBus（市バス）にも乗りました。ハワイのバスは主要路線はほぼ１００％車イス用のリフトやスロープが付いているそうです。僕たちが乗ったバスもリフトで乗り降りでき、乗車後も運転手さんが車イスを固定してくれたりと、いろいろしていただきました。移動の大半はJTBの無料トロリーバスを使用

していたのですが、今JTBでは新しいトロリーバスに入れ替え中で、新しいトロリーには車イスでも乗り降りしやすいスロープが付いていました。ただ車内に車イスを固定する装置はなく、座席に移って乗るのが条件でした。M.O.さんは座席への移乗が可能で、旅行の申し込み時にJTBの方からも「座席に移って乗っていただくんですがいいですか？」と言われていたので戸惑うことなく乗れました。またトロリーの運転手さんたちも現地の方々で気さくに声をかけていただき、ハワイの方の陽気な人柄に触れることができました。ただ中にはなぜかなかなかスロープを出してくれない運転手さんもいました。なぜ！？と思いましたが、それも国民性の一種だったのでしょうか？

ダイヤモンドヘッド入口

登れなかった
山道と階段

僕たちが宿泊していたホテルの近いところにダイヤモンドヘッドがありました。ただガイドブックで山道と長い階段を登った先に展望台があると知っていたので、展望台には無理かなぁ？と話していたのですが、せっかくなので行けるところまで行きましょうかと、ダイヤモンドヘッドにも行ってみました。僕たちは行けるところだけでいいと思って行ったのですが、ふもとの料金所で、ものすごく止められました。山だから車イスでは無理！と英語で（たぶん）言われ、お金すら受け取ってもらえませんでした。僕が英語がぜんぜん話せないので「行ける所まで（だけ）行きたい」とはなかなか伝えられず苦労しました。なんとか中には入れてもらえたのですが、さすがに車イスで山道は無理でした（笑）帰ってからその出来事を話ている時、アメリカは訴訟社会でお金を受け取ったらその中で何かあった時の責任問題になるからやろうと意見を聞き、そんなところでも国の違いをかんじました。

なにはともあれ、４泊６日のハワイ旅行は行く前の心配をよそに大変楽しい旅行となりました。

ヘルパー　インタビュー

テーマ「福祉学部以外の学部に所属する学生ヘルパーさん」

参加者：東浦奏子さん、井上佳菜さん、西浦美穂さん、松尾勇輝君

宮村：さて、今回集まっていただいたみなさんに共通していることは『福祉学部以外の学部で活躍している登録ヘルパー』です。まずみなさんにお聞きしたいのは、所属している学部でどのようなことを勉強しているのかということです。

東浦：私は教育学部４回生です。幼児教育を専攻しています。実技で工作をしたり、幼児音楽ゼミで人形劇や絵本などを作って子供が楽しめるようなイベントの企画などをしています。

井上：私は国際文化学部４回生です。外国の語学や政治、文化などを勉強しています。私の研究フィールドは日本で、各地域のお祭りや信仰について学んでいます。主に民俗学です。

西浦：私も国際文化学部で今２回生です。来年からゼミが始まるのですが自然人類学というテーマで研究しようと思っています。

松尾：僕は社会学科に所属しています。今２回生です。基本的にそれぞれが地域に出向き、各地域の人々からインタビューをとり、調査結果を大学に報告するという勉強をしています。

宮村：みなさんそれぞれ違った勉強をしているわけですが、なぜじゅぷを知りヘルパーをはじめようと思ったのですか？そのいきさつを教えてください。

東浦：私は3回生の時に井上さんがmixiでじゅぷが主催する重度訪問介護養成研修の宣伝をしていてそれをみたのがきっかけです。どういうことをするのか知らなかったのですが、大学在学中は色んなことにチャレンジしたかったので思い切ってはじめました。

井上：私は１回生のときに大学の先輩だった大槻さんに、「ヘルパーやらへん？」と誘われたのがきっかけです。私の隣で一緒にしゃべっていた友達が福祉学科でしたので、私も福祉学科に間違えられたんです。でも東浦さんと同じで大学在学中、特に１回生のときは好奇心旺盛でしたので、誘われたのも何かの縁だと思い始めることになりました。

西浦：もともと高齢者施設みたいなところでバイトしたかったのですが、そのときに友達の今村さんにじゅぷを紹介されたのがきっかけです。おばあちゃんが高齢者施設にいるので何か資格をとりたいと思い、１回生のときにヘルパー２級をとりにいきました。福祉学科に入学することも考えていましたが、高校のときイギリスに留学したことが決め手になり国際文化学部に入学しました。この学部を選んだのは、英語の勉強をしながら福祉のバイトはできると思っていましたが、福祉の学部に入って英語の勉強をするのは難しいと思ったからです。

松尾：もともと将来のことを全然考えていなくて、とりあえず大学に入れたらいいやという感じでした。大学に入って何か資格がほしいと思っていたときにじゅぷを知りました。軽音サークルに臨床福祉学科の友達が多かったので、３日間で取れる資格の話を聞きました。同時に何かアルバイトを始めたかったのもきっかけでした。

宮村：ヘルパーをはじめる前に不安はなかったですか？

松尾：いきなりこんな高い時給で何をやらされるんだろうと思ったら不安でした。

井上：もし私が利用者さんに怪我をさせてしまったらどうしようかという不安はありました。そういうリスキーな仕事だからこそ時給が高くなっているのだろうと思っていました。

宮村：なるほど、何か怖いことをやらされるのではという気持ちは福祉学部の学生からも良く聞く話です。実際にヘルパーとして働き始めてどんな印象を持ちましたか？

東浦：私は給料明細をみたときにこんなにもらっていいのだろうかという気持ちがありました。実際やってみて危険なこともなかったし、むしろ楽しんでやっていたので。苦労せずにできたのはご本人さんとの相性が良かったというのも一つの要因だと思います。

井上：私も相性が合う、合わないというのは必ず出てくると思いますね。ましてや人間対人間の仕事ですからね。私自身苦労せずやってこれたのは利用者さんの人柄が大きく関係していると感じています。家事援助にしても身体介護にしても全く初めての状態でいった時それを寛容に受け入れてゆっくり教えてくださったので安心してヘルプにのぞめました。家事に関してはまるで花嫁修業のようでした。

西浦：私は身体介護をしているとき、やはりその仕事の大変さを知りました。私自身、体が大きい方ではないので外出で車いすを押しているときやトイレ介助で移乗するときだいぶ苦労した経験があります。

宮村：身体介護で苦労した時の話が出ましたが、他に苦労した経験はありますか？

井上：自閉症を持つ方と関わったときは、最初その方の障害特性や症状などの理解に苦しんだのですが、難しいことを考えずに接しようと思っているうちにお互いの壁も解消し、それからすんなりコミュニケーションがとれるようになってきました。

松尾：僕もコミュニケーションには苦労したことがあるのですが、それ以上に料理作りに苦労しました。料理を７品ほど食べられる方がいるのですが、最初はその７品を作って出すのに何時間もかかってしまっていたんです。ゆっくりやってくれてもいいよとは言われても、さすがに何時間もかかっていては申し訳ないと思い段取りよくスムーズに作れるよう頑張りました。

宮村：そうですか、ここで一つ他学科ならではのみなさんに質問したいことがあるのですが、入浴介助で人の体に触れたり、トイレ介助で便の処理をするということに抵抗はなかったですか？

井上：最初恥ずかしさや緊張はあったのですが、向こうが慣れていると思いながらやっているうちに楽に介助できるようになってきました。汚さとかの抵抗はなかったです。

東浦：私も別に最初から抵抗はなかったですね。

西浦：私もそれほどなかったですね。おばあちゃんの介護をよく見ていたので。

松尾：ヘルプに入り、便の処理を１年ほどしているうちに慣れてきました。やはり最初は抵抗がありましたね。

井上：私たちはこの仕事をバイトとしてやっているじゃないですか。言えば期限があるといいますか。本職でやっている方は毎日そういう仕事をされていることが何よりすごいと思います。

宮村：最後の質問になりますが、みなさんはどういう職に就こうと考えていますか？

東浦：私は４月から幼稚園の先生として働くことが決まっています。

井上：４月から大学院に行って研究を続けます。最終的には今持っている博物館学芸員の資格を生かせる職に就きたいと考えています。

西浦：私はまだ２回生なのでそこまで深くは考えていないのですが、体を動かしながらかつ英語を生かせる仕事に就きたいと考えています。

松尾：進路を決めて大学に入ったわけではないので、やりたいことも特にないのですが、じゅぷで働いている中で福祉系の魅力を感じているので福祉関係の就職も視野に入っています。

宮村：今日は貴重な体験談を聞かせていただきありがとうございました。

新聞記事から……

発達障害について

阿部正之

みなさんは「発達障害」という言葉をご存知でしょうか。最近、よくメディアにも取り上げられる機会も多いので、ご存知の方も多いと思います。
「自閉症・アスペルガー・ＬＤ」などなど。新聞の特集記事とともに、まとめてみましたので、ご一読いただければと思います。

平成17年に「発達障害者支援法」という法律が施行されました。身体障害者福祉法(昭和25年)や知的障害者福祉法(昭和35年)と比べても歴史の浅い法律です。法律上の障害者の定義は障害者基本法で定められた３障害「身体障害・知的障害・精神障害」に限定されていましたが、この支援法によって新たに「発達障害」が位置づけられました。

みなさんの在籍していた小中学校でも心当たりの人がいなかったでしょうか？
2012年の文部科学省の調査では、公立小中学校の通常学級に在籍児童で

「発達障害の可能性のある児童」	６．５％
「　〃　男児」	９．３％
「　〃　女児」	３．６％
「　〃　小学１年生」	９．８％
「　〃　中学３年生」	３．２％
「ＬＤの可能性がある児童」	４．５％
「ＡＤＨＤの可能性がある児童」	３．１％
「高機能自閉症の可能性がある児童」	１．１％

上記のデータと特別支援学校や特別支援学級において、発達障害の可能性がある児童は全国で推計約60万人に上り、40人学級で１クラスにつき２～３人という計算になります。

発達障害の子供の教育に詳しい専門家は「発達障害の可能性があるとまで判定はされなかったものの、近い問題を抱える子供は多い。こうした子たちへの支援も重要だ」と指摘しています。
また他障害の方の支援に比べて難しいことは、発達障害の特徴というものが「時、ところ、人」によって現れ方が異なります。ゆっくりと時には急激に変化します。だから発達障害を理解し支援していくためには、障害の特徴や診断名など固定的、硬直的にとらえず、弾力的に捉えることが大事と思われます。また発達障害は大人になってから発見されることも少なくなく、さらに支援を困難にしています。

二〇一二年十一月一日付　読売新聞より

発達障害 社会の理解を

就労困難で相談増加

大人の発達障害者が就労の困難に直面している。診断を受けないまま社会に出て、職場に適応できなかったり、就職できなかったりする例も多い。周囲の配慮があれば能力を発揮できる人も多く、社会全体で理解を深める必要がある。

生活情報部 赤池泰斗

厚生労働省のまとめでは、全国の発達障害者支援センターに相談した19歳以上は2011年度に2万12442人で、05年度の2932人から大幅に増えている。同省によると「職場で厳しい評価を受けた結果、自分が発達障害なのではと疑い、受診する人も多い」という。

大阪府で発達障害者の当事者会を主宰する石橋尋志さん(33)は、会社での営業成績はトップクラスだった。しかし、書類を書き間違えたり顧客との約束を忘れたりするミスで「社会人としての自覚がない」と叱責され続けた。26歳でＡＤＨＤの診断を受け、「駄目な人間だと思い込んでいたが、疑問が解けた」と振り返る。

診断を受けないまま、就労に悩む人もいる。

法律に基づき、企業は一定の障害者を雇用しなければならない。この枠での就職には障害者手帳の取得が必要になるが、発達障害者に独自の手帳制度はない。

身体障害者には「身体障害者手帳」、知的障害者は「療育手帳」、精神障害者は「精神障害者保健福祉手帳」がある。例えば、知的な遅れのないアスペルガー症候群の場合でも、精神障害者保健福祉手帳を申請できるが、取得に消極的な人もいる。障害者雇用枠で採用されると、一定の配慮の中で仕事ができるものの、昇進や待遇が適正行かないものになる可能性がある。

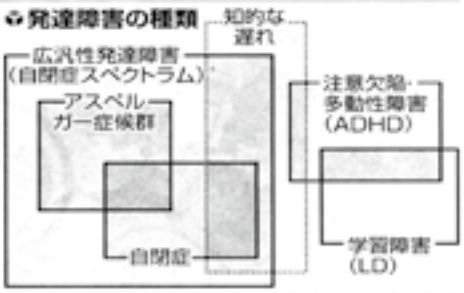
このため、障害を隠して仕事や就職活動をしている人もいる。ある精神科医は「今の仕事を続けたいなら、周囲に言わないように助言している」と明かす。

発達障害者には記憶力にたけ、数字や文字に強い人も多い。創造的な仕事で成功を収めている人もいる。

川崎医療福祉大の佐々木正美・特任教授は「苦手分野をフォローするなどの配慮があれば十分に能力を発揮できる人は多い。企業の管理職研修などで発達障害について学ぶ機会を増やしていくべきだ」と提言する。

社会に適応するため、発達障害者がグループを作りコミュニケーションを学ぶ活動も広がっている。こうした動きと連動し、国の支援の充実を図るとともに、社会がどう受け入れていくか考える時期に来ている。

発達障害の種類



※厚生労働省の資料などを参考に作成

発達障害　脳機能の障害で、幼少期に発現するとされる。集中力が続きにくい注意欠陥・多動性障害（ＡＤＨＤ）、読み書きや計算が難しい学習障害（ＬＤ）、対人関係などに障害を抱えるアスペルガー症候群などの広汎性発達障害がある。障害が重複する場合もある。

映画・本紹介コーナー

まだまだ続いてます！

上井　英里

寒い冬が続いていますが、いかがお過ごしですか？冬に合う映画紹介を…と思ったのですが、好きな映画を思い出したので、少し時期外れですが紹介したいと思います♪

映　『ミス・ポター』 cinema cinema cinema cinema cinema cinema

《あらすじ》

ピーター・ラビットの作者として知られるビアトリクス・ポターTMの人生を描く。上流階級の女性が職業を持てなかった時代に、絵本作家としての道を自ら切り開いた進歩的なポターをレニー・ゼルウィガーが楽しげに演じている。実際のポターは、晩年、湖水地方の保護活動に携わるまでは、孤独な人生であったと伝える伝記が多い。しかし、本作では暗い部分はなく、『ベイブ』のクリス・ヌーナンらしい、温かくて愛らしい作品に仕上がっている。緑の中でのびのびと創作するポターの姿は、今回、初めて製作を手がけたゼルウィガーと重なるかも。「ありがちな作品にしたくなかった」とヌーナン監督が語るように、アニメーションを導入するなど楽しさ一杯。

《うわい感想》

作中に出てくる、出版社“ウォーン社”は実在しており、現在もピーター・ラビットの絵本を出版しています。

32歳の未婚の女性が、働く事の難しさや、周囲の偏見や親の反対にめげない姿勢は現代の働く女性が共感出来る内容ではないかと思います。

主演のレニーゼルウィガーは、映画「シガゴ」や「ブリッジットジョーンズの日記」等出演。

幅広く演技の出来る女優さんなので、すっぴんで勝負したレニーゼルウィガーのミス・ポターもお勧めです！

本　『ピーターラビットのおはなし』 book book book book book

《あらすじ》

ポターがかつての家庭教師の幼い息子、ノエル・ムーアに出した絵手紙を、本にして出版するために書き直したものです。

それから百年もの間、いたずらなうさぎのピーターが、マグレガーさんの畑から命からがら脱出するこのお話は、世界中の子どもたちを魅了し続けています。

《うわい感想》

みなさん１度は目にした事があると思います。

淡い綺麗な絵のイメージと反対に内容は、ウサギ目線で絵本が描かれているので、人間が少し怖い存在としてシビアに描かれています。

110年前の作品ですが、今でも世界的に人気がある絵本ですので上記の映画と共に是非見て頂きたい作品です。

レニーゼルウィガーの出ている作品で上記に書いている「シカゴ」はミュージカル好きな人に是非見て頂きたい作品です。ご興味のある人は是非ご覧下さい

じゅぷ川（せん）のコーナー

今年もじゅぷ川のコーナーをよろしくお願いします。
お題が難しい！というご意見もいただきましたが…たくさんご投稿いただきました。
やっぱりＡＫＢネタが多いですねー！　年末年始もアイドルのみなさんは大忙しのようですね…

アイドルに　愛か？$か？と　聞いてみた
赤い彗星の鉄郎

（編）どっちの答えが返ってくるんでしょうね！愛…と願いますが、ドル…いや、円かもしれませんね（笑）

ＡＫＢ　ドイツ語読みで　アーカーベー
ふじた

（編）あっかんべー！みたいですねー。発想がおもしろいですね！

ＡＫＢ　ももクロあやや　ＳＫＥ
きむら

（編）アイドルの名前の羅列ですが…（笑）何か響きがいい感じですね！あやや、懐かしい存在になっちゃいましたねー。

日々奔走　アイドル並みの　スケジュール
チュチュム

（編）分刻みのスケジュールでしょうか？お疲れ様です！スケジュールが落ち着いたときには、パーッといきましょう！お付き合いしますよ♪（笑）

アイドルを　夢見た日々よ　今いずこ
朝香

（編）子どもの頃、みんな一度は憧れますよね！みなさんが、「なりたい！」と思っていたアイドルは誰ですか？

信じてた　わけでもないけど　かなＰね
ちゃっＰ

（編）きっと、あのお方のことですよね…？あれ、違うかな？わかる人にはわかりますよね！

アイドルの　見分けがつかない　お年頃
コタツ大好き

（編）ジャ○ーズの最近のグループは私も全然わかりません。あ、同じようなお年頃ですね…コタツ大好きさん！

枕もと　ずっと見ていた　あの舞台
ｔａｋａ

（編）夢見た舞台は、どんなのでしょうねー！武道館？ドーム？私も夢を見て、追い続けるといつか叶う、そう信じてた日々がありました。あ、アイドルではないんですけどね！

世の中は　ＴＰＰより　ＡＫＢ
おにぎり食べたい

（編）ちなみに…ＡＫＢは秋葉原、ＴＰＰは環太平洋パートナーシップ協定、もしくは、環太平洋経済連携協定の略称です。ご参考までに…

新人紹介

☆名前　**藤田 裕也（ふじた ゆうや）**
☆生年月日　昭和58年８月５日 金曜日生まれ（満29歳）
☆血液型　Ａ型
☆好きな食べ物　たまごかけご飯、
☆好きな事　スポーツ全般（球技は苦手）
乗り物（自転車、バイク、車等々）

藤田裕也
（自画像）

～ひとこと～
今年の９月にじゅぷへ入社した藤田です(^ ^)
このぬぷぽんを皆さんが読む頃には、入社してから丁度６ヶ月経っているので僕の事を知っている方も多いと思いますが､改めてよろしくお願いしますm(__)m
以前勤務していた老人ホームで学んだことを生かせれば良いなと思っています。
最後に一言「何でもできる」を目標にボチボチ進んで行きます(^^)/

はじめまして！
12月から、じゅぷに新しく入りました、**大幡彩美(おおはたさやみ)**と申します。

新入社員という響きに、少々感動を覚えるアラサーであります。

趣味は歌うことと、小さい頃から動物が好きなので、動物とまったり過ごす時間が大好きな人です。
飼ったことのある動物は、犬、猫、うさぎ、ハムスター、カメ、金魚ですが、今はいないので、猫カフェや写真で癒される毎日です。
歌は、同じく歌好きな兄の影響を受けて、有名どころのポップスなどを聴いて、一緒にカラオケに行ったりしています。昨年くらいから、一人でも行けるくらいにカラオケ好きになってしまいました。

こんな私ですが、がんばっていきたいと思っています。
これからよろしくお願いいたします。

大幡彩美
（自画像）

事務所の２階テナントを借りました！

昨年、従業員が３名増えたことに伴い事務所が手狭になりました。そこで、ずっと空いていた事務所の２階のテナントを借り、文書棚などを２階に移し、一階の事務スペースを確保しました。いずれは移転も考えていかなければと思いますが、当面はこれで乗り切っていこうと考えています。

また２階も物置にしておくのはもったいないので、最低限の改修をして、ちょっとしたヘルパー研修や会議・面談等に利用できるように整備しました。

ただ、エレベーターがないので利用してもらいにくいのが残念です。近年中にみんなが利用しやすい施設に移転するべく運営委員会で新規事業も含めて検討中ですので、お許し下さい。

あとがき 新従業員は前ページで紹介しています。

猫と暮らしたい衝動が時々激しく起きます。猫と戯れる夢を見たり。でも借家なので許してもらえません。猫のために家を買いたいくらいだわ。

（染井将仁）

昨年のクリスマス・イヴ、我が家にはサンタさんがやって来ました。こどもは大喜びでした。しかし当然ですが実際にはサンタさんは来ていません。今後どうやって、こども達に現実を教えていかなければならないかと思うと、非常に心苦しい今日このごろです。

（阿部正之）

昨年のはじめ、ここで、何かチャレンジしますと宣言し、そこから登山を始め、夏には念願の富士山へ！なんとか登頂できました！ご来光はとってもキレイでした♪今年も楽しくアクティブに過ごしたいと思います！

（國實紗登美）

前回号から引き続き、貯金シリーズですが、ポケット貯金に引き続き、毎月のガソリン代を密かに貯金する（貯まる度に周囲に報告していたので、よく考えたら結構オープンに貯金していました）“事務所貯金”なるものを今年１年間していたのですが、思っていた以上に貯まったので、また新年度気持ちを新たに“小銭貯金シリーズ”をしていきたいなと思います！

（上井英里）

昨年秋、韓国に行って以来、遅咲きの韓国にハマってしまいました。韓国語のCDを聞きDVDを観、キムチをつくり…。特にワールドニュースが面白い！今年は全季節制覇したいと思っています。同じ趣味の方愉しみ方を教えてください。

（目片真弓）

みなさまに報告ですが、私宮村は来年度から実家の静岡に戻り、学校教員としての道をスタートすることになりました。これは小さいころからの夢であり、昨年からその思いがじわじわと膨れ上がっての決断であります。理由はいろいろありますが、私ももう30歳手前、チャレンジするのだったら今かなと。身勝手な判断で、多くの方に迷惑をかけることになりますがお許しください。5年間じゅぷを通して学んだことを大切に、4月から新たな人生を歩んでいきたいと思います。

（宮村健太郎）

最近ＤＶＤでこち亀を見るのが私の至福のひとときで、思い切りの良い笑いあり心に染みる涙あり、おもしろいです。

（木村佐智子）

前回のあとがきではポケモンにハマってます、と書かせていただきましたが、今は３DSの「とびだせ！どうぶつの森」にハマっています。現実の時間とリンクしたゲームで、森の住人とのスローライフを満喫しています。

（北川　学）

車で２時間ほどの田舎で借りている棚田があります。例年80才をこえた父と二人でつくっていましたが、昨年末父が患い今年は一人でつくることにしました。休日は２時間かけて田んぼ通いの日々になりそうです。農業を楽しむスローライフとはいきそうにありませんが、どうなることやら……

（前田雅文）

〒520-2153 滋賀県 大津市 一里山2丁目2-8
電話.077-548-3511 ファックス.548-3515
E-mail：support@je-peux.net

特定非営利活動法人りあん　地域生活サポートセンターじゅぷ通信「ぬぷぼん」第16号　2013年2月